

## 本時のねらい

・町の中の「バリア」となっているものについて気付き、どんな工夫があれば「バリア」をなくすることができるのか考えることができる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・iPadで町中のイラスト資料の情報をみる。  
・前時の町のイラスト資料と、本時のイラスト資料を比較することで、町の中の「バリア」がどう改善されたかに気づかせる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ iPad      ・ オクリンク      ・ AppleTV      ・ PowerPoint

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時を振り返る。 ・「バリアフリー」とは？・町の中の「バリア」とは？	○前時に使ったPowerPointを一人ひとりが確認することで、内容を思い出す。
展開 (35分)	○町の中のバリアフリーを見つけ、プリントに書く。 前時…不便を感じている人が多い町 本時…「バリア」が改善された町  ○見つけたバリアフリーを発表する。  ○PowerPointで色々な写真を見せながら、言葉の確認をする。（「点字ブロック」「バスのスロープ」など）	○オクリンクでイラストを送る。 前時と本時のイラスト資料を見比べて、どんな工夫がされているかを見つけさせる。 資料を見る際は、拡大しながら探すように声をかける。 困っている児童には、「犬のマーク」など、拡大して見るべきヒントを伝える。  ○みんなで確認できるように、AppleTVでスクリーンに映す。
まとめ (5分)	○本時で自分が思ったことや考えたことを書く。  ○次時の予告をする。 「みんながくらしやすい」の「みんな」とは？	

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：イラスト資料を見ながら、町がどう変わったかを見つける様子



写真2：イラスト資料から見つけたことを、プリントに書く様子



写真3：コメント入りの改善された町のイラストを拡大しながら確認する

## 児童生徒の反応や変容

・拡大して細部まで見ることができるため、「あ、歩道橋にエレベーターがついたからベビーカーでも行ける！」「このタクシーなら車いすでも乗れる！」など、うれしそうに発見したことをつぶやいていた。また、「バスのスロープ、これ見たことある。」「電車でもこういうものを駅員さんがつけていたよ。」など、自分の生活と結び付けてバリアフリーを見つけるなど、興味を持って取り組むことができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・子どもは隠れているものを探し出すことが好きなので、画像を拡大しながら楽しく取り組むことができ、町の中にどんな工夫があるかを考えさせるというねらいの達成につながった。